

興教寺

西安市汽車站から、焦岱行きバスで「興教寺」下車 圏10元



玄奘舍利塔▲

南線ツアー

タクシーをチャーター草堂寺・香積寺・興教寺チャーター代約400元にガス50元入場料、駐車代など全部で479元。高いが時間のない人にはよい。

草堂寺

西安市汽車站から、宋村行きバスで「草堂寺」下車 圏3元

西安駅での切符の買い方一般の窓口は1階で、外国人用は2階。左から3つ目の窓口で申し込む。席が空いていれば予約票をくれるので、右側にある4番窓口に並び、お金を払う。営業時間が短いので注意。8:30~10:30、14:30~16:30。土曜午前のみ営業、日曜休（在中国 芹沢雅仁）

民航の售票処から鉄道駅には101路の路面電車で行ける。タクシーなら町中心まで約10元、鉄道駅までは20元ぐらいた。

（在中国 芹沢雅仁）

皇帝の子爾宗（756-761年在位）によって命名された。

唐の太和2年（828年）に重修された建築は、19世紀の初頭に兵火によって焼失し、現存の建物は、1922年と1932年に再建されたもの。西院に唐代に建立されたレンガ造りの3基の塔があることで有名である。中央の最も大きな塔が玄奘の舍利塔で、左右の塔は、玄奘の2人の高弟窟基と円測の墓塔である。東院は、藏經院とも呼ばれ、ここには宋代に印刷された仏典が多数収蔵されている。なお、興教寺からは、南方に終南山を望むことができる。

藍田猿人遺跡

ランティエンユエンレンイーヂー

ここで1964年、今から60万~70万年前の中年女性の猿人頭蓋骨が発見された。これは北京原人よりさらに古い。

草堂寺 ツァオタンズー

創建は東晋末で、この寺は、後秦の時代亀茲国（現在のクチャ）出身の名僧鳩摩羅什が仏典の翻訳をしたところ。

鳩摩羅什は、またの名をクマーラジーバとも言い、紀元344年、インド人僧を父に、亀茲国国王の妹を母に生まれた。7歳の時出家、カシミールや今のカシュガルで最初に小乗仏教を、のちに大乘仏教を学んだ。亀茲国に帰った彼の名は、遠く長安にまで聞こえ、401年後の秦の姚興に国師として迎えられた。彼が訳した仏典は97部、425巻におよぶと言われている。

413年、鳩摩羅什はこの世を去るが、彼の舍利塔は「姚秦三蔵法師鳩摩羅什舍利塔」と名づけて建てられた。またの名を「八宝玉石塔」ともいう。この塔は千年以上たった今でも現存している。

〈西北郊外〉

茂陵 マオリン

西安市郊外約40kmの興平県、渭北丘陵にある、漢の武帝・劉徹の墓である。陵墓は方形で、高さ46.5m、底部は東西231m、南北234mある。この付近には前漢期の皇帝陵が9つあるが、大きさは、前漢最盛期の武帝だけあって、茂陵が最大である。

武帝は前漢第七代皇帝で、元号の制定、儒学の官学化など国内中央集権化を確立させ、また対外政策も積極的で、匈奴征討、張騫の大月氏派遣、周辺諸地域経営をすすめ、漢帝国の基礎を確立させ、前漢最盛期を導いた。

茂陵は武帝即位の翌年から53年を費やし建設されたが、毎年、全国の税の3分の1がこの工事に用いられたという。墓内の殉葬品は非常に豪華で、武帝の身につけていた金縷玉衣、玉箱、玉杖、武帝の生前に読んでいた様々な經典30余巻などがおさめられていたといわれている。

茂陵の東方には漢の名将、衛青、霍去病、重臣・金日磾ら

の墓があり、西には武帝の愛妃李夫人の英陵がある。

霍去病墓 フォチュイビンムー

茂陵の東500mほどのところにある前漢の名将・霍去病の墓で、茂陵の陪葬墓の1つ。

霍去病は武帝の衛皇后の甥でもあり、衛青の甥でもあった。衛皇后の縁故により前123年、18歳で待中となり、同年衛青とともに匈奴征討で活躍し、河西回廊を獲得し、西域との交通を可能にしたが、24歳で病死した。武帝が彼の死を悼んで造らせたのがこの墳墓で、墓形は功をたてた祁連山をかたどり、巨石を配している。

霍去病墓で見逃せないのは墓の前に建っている茂陵博物館にある石刻である。匈奴を踏む馬、伏虎、臥牛など14件の石刻と2件の石刻で、いずれも自然石を生かした彫刻で、その表情は実に生き生きしている。これらは前漢期の傑作で、中国の石彫刻の伝統はここに始まるとも言われている。

乾陵 チェンリン

けんりょう

唐の第三代高宗とその皇后で中国史上唯一の女帝となった則天武后の陵。高宗の死後、則天武后が造営した。唐代の陵の代表的なもの。西安市西北約75km、昭陵の西約30km、乾県の梁山、標高1047.9mを利用して造られている。

章懷太子墓 チャンホワイタイズームー

しょうかい

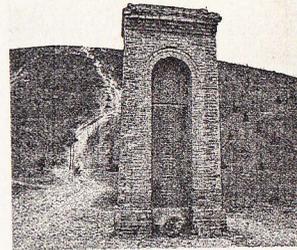
乾陵の東南にある唐の高宗と則天武后の次男李賢の墓。李賢は武后の怒りにふれ、684年、31歳で自殺させられた。706年に乾陵に陪葬、711年に章懷太子に追封され、その妻と合葬された。1971~72年に陝西省博物館等により発掘調査され、全長71m、幅3.3m、奥行き7mの墓が発見された。盗掘のあとはあるが、その壁画はよく保存され有名。壁画の総数は50余幅、総面積は400余m²と広く、出行図、馬球図、演奏図、侍女図、観鳥捕蟬図、迎賓図など、李賢生前の生活や当時の風俗、外交活動などをうつし出しており、出土した俑や三彩器とあわせて、唐代の社会や貴族の生活がしのばれる。

懿徳太子墓 イードウタイズームー

乾陵の東南、韓家堡にある中宗と韋后の長子李重潤の墓。章懷太子墓とともに1971~72年の発掘で調査された。

懿徳太子は、永泰公主の兄だが、祖母の武則天の怒りにふれ、701年に19歳で自殺した。その後、祖父の高宗の乾陵に706年に洛陽から陪葬された。

墓は全長約100m。すでに盗掘のあとがあるが、出土した壁画はほぼ完全なもの40幅、陶俑、石刻、陶磁器や金属製の副葬品が1000点以上にのぼる。なかでも大量の騎馬俑中の加彩塗金鎧馬俑は近衛騎兵で、その豪華さに目をうば



茂陵

茂陵博物館

圏15元

●レンタル自転車

東新街484号

圏8:00~20:00

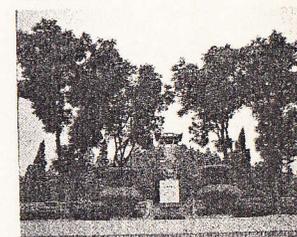
人民大厦斜め向かい

1時間2元

1日10元（新車は12元）

パスポートを預ける

霍去病墓



乾陵

圏20元

圏8:30~17:30 (95)

武豊園

圏1元

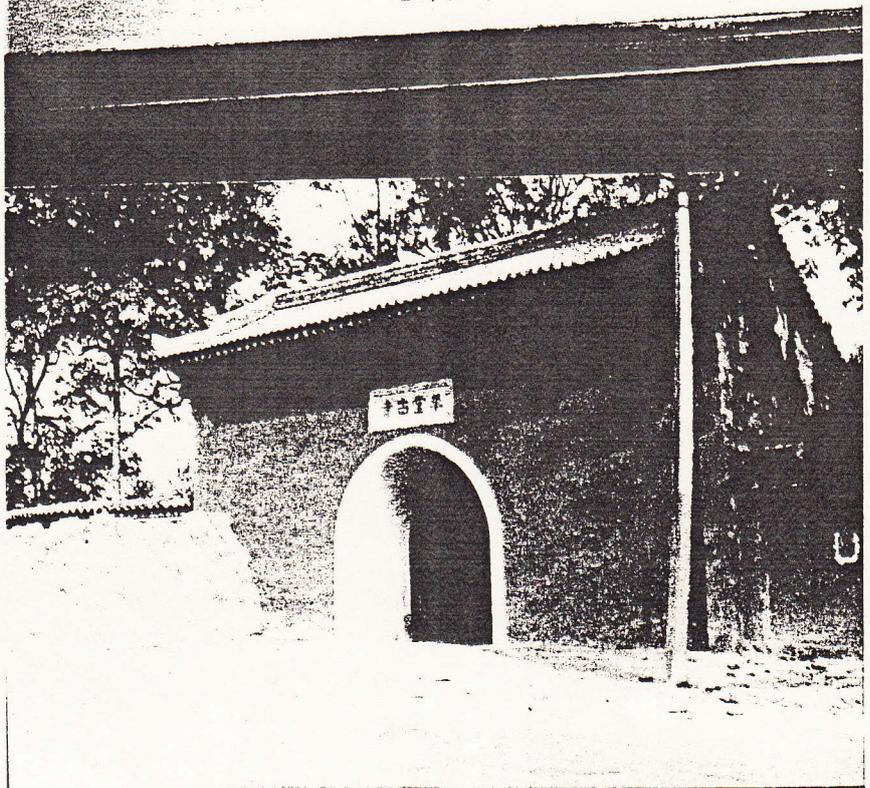
●駅前からのツアーバス各旅行社のツアーの他、駅前からもでている。西安→咸陽博物館-懿徳太子墓-武豊園-乾陵地宮-永泰公主墓-法門寺-西安30元（昼食、入場料別）他ガイド料が5元。中国語ガイドなので、わからない人にはすすめられない。

草堂寺简介

草堂寺位于秦岭北麓，距西安约五十多公里，有佛教禅宗五祖之一的慧能大师在此传法，是佛教中国化的重要标志。寺内供奉慧能大师的坐像，并刻有《六祖大师碑》。寺内还有中国文字大篆碑林，是研究中国文字的重要实物资料。

草堂寺始建于北魏，隋文帝开皇年间，慧能大师在此传法，建立草堂寺。唐高祖武德年间，慧能大师在此圆寂。唐太宗贞观年间，唐太宗李世民在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐高宗显庆年间，唐高宗李治在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐睿宗景云年间，唐睿宗李旦在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐肃宗乾元年间，唐肃宗李亨在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐德宗贞元年间，唐德宗李适在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐顺宗永贞年间，唐顺宗李诵在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐宪宗元和年间，唐宪宗李纯在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐穆宗长庆年间，唐穆宗李恒在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐敬宗宝历年间，唐敬宗李湛在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐文宗太和年间，唐文宗李昂在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐武宗会昌年间，唐武宗李炎在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐宣宗大中年间，唐宣宗李忱在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐懿宗咸通年间，唐懿宗李漼在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐僖宗乾符年间，唐僖宗李晔在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐昭宗乾祐年间，唐昭宗李晔在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐哀宗天祐年间，唐哀宗李晔在草堂寺出家，出家后在草堂寺修行。唐末，草堂寺被毁。明初，草堂寺重建。清康熙年间，草堂寺重建。乾隆年间，草堂寺重建。道光年间，草堂寺重建。咸丰年间，草堂寺重建。同治年间，草堂寺重建。光绪年间，草堂寺重建。宣统年间，草堂寺重建。民国年间，草堂寺重建。中华人民共和国成立后，草堂寺被列为全国重点文物保护单位。

陕西省文物普查队编
一九八二年四月一日



关于中華人民共和國草堂寺与日本國國前寺之間
友好交流的备忘录

草堂寺位于中華人民共和國西安市，是一處作為此宗
三藏法師鳩摩羅什的译经处，作为富有很有历史性的
佛教圣地，著称天下。

日本日莲宗本山國前寺位于广岛市，是一處作為日本
唯一的鸠摩罗什法印木像的所有者，著名的寺院。
由于这些缘故，草堂寺和國前寺同意进行友好及必
文化交流关系。

双方寺院今后互相协助着鸠摩罗什法印的遗德，互
该继续为中日兩國的佛教繁荣而努力下去。

另外，草堂寺和國前寺之間互相访问等具体交流方
法，都直接由双方协商同意来决定。

佛历二五〇三年（公元一九九九年一月十七日）

中華人民共和國西安市草堂寺方丈釋宏林

日本國之廣島市國前寺

日蓮宗 康國院日華

執事長康永院日量

